ワールド・ソブリンインカム（1年決算型）（愛称　十二単衣（1年決算型））

追加型投信／内外／債券

作成対象期間：2014年９月26日～2015年９月25日

交付運用報告書

第７期（決算日2015年９月25日）

受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ワールド・ソブリンインカム（１年決算型）（愛称　十二単衣（１年決算型））」は、このたび、第７期の決算を行いました。

当ファンドは、ワールド・ソブリンインカム マザーファンドの受益証券を主要投資対象とし、マザーファンドを通じて、日本を含む主要先進各国のソブリン債（国債および政府保証債等）に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第７期末（2015年９月25日）	
基準価額	12,943円
純資産総額	33百万円
第７期	
騰落率	4.4%
分配金（税引前）合計	100円

（注）騰落率は分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。

（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、岡三アセットマネジメントのホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞
ホームページの「ファンド一覧」等から当ファンドのファンド名称を選択することにより、「ファンド詳細」ページにおいて運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。

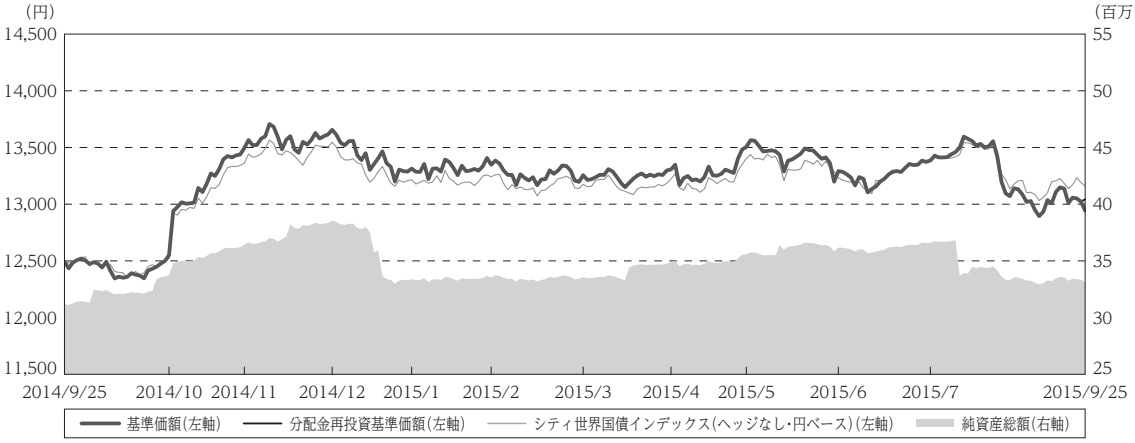
岡三アセットマネジメント
〒104-0028　東京都中央区八重洲２－８－１
お問い合わせは弊社カスタマーサービス部へ
フリーダイヤル 0120－048－214（営業日の9:00～17:00）

［ホームページ］
http://www.okasan-am.jp
※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。
※機種により本サービスをご利用いただけない場合があります。

運用経過

期中の基準価額等の推移

（2014年9月26日～2015年9月25日）



期　首：12,491円
期　末：12,943円（既払分配金（税引前）：100円）
騰落率：　4.4%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注）ベンチマークは、シティ世界国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）です。詳細につきましては、最終ページをご覧ください。
（注）分配金再投資基準価額およびベンチマークは、期首（2014年9月25日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
（注）上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの主要投資対象である「ワールド・ソブリンインカム マザーファンド」における、主なプラス要因及び主なマイナス要因は以下の通りです。

（主なプラス要因）

・投資国の長期国債の利回りが低下（価格は上昇）する中、ベンチマークと比較し、相対的に利回り水準の高い海外国債（ユーロ圏の国債を除く）の投資比率を高めに推移させたことが利息収入獲得と保有債券の価格上昇の両面でプラスとなりました。
・米ドルと英ポンドに対し円安、ユーロに対し円高が進行する中、ベンチマークと比較し、米ドルと英ポンドの投資比率を高めに、ユーロの投資比率を低めに推移させたことが為替面でのプラスとなりました（ただし、米ドルの投資比率に関しては、当期末時点ではベンチマークを下回っています）。

（主なマイナス要因）

・豪ドルと加ドルに対し円高が進行する中、ベンチマークと比較し、豪ドルと加ドルの投資比率を高めに推移させたことが為替面でのマイナスとなりました。

１万口当たりの費用明細

（2014年9月26日～2015年9月25日）

項目	当期 金額	当期 比率	項目の概要
	円	%	
(a) 信託報酬	150	1.134	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	(43)	(0.324)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(100)	(0.756)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(7)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	2	0.016	(b)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(1)	(0.011)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	(0)	(0.000)	その他は、金融商品取引を行う為の識別番号取得費用
合計	152	1.150	
期中の平均基準価額は、13,228円です。			

（注）期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
（注）各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
（注）その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。
（注）各比率は１万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第３位未満は四捨五入してあります。

最近５年間の基準価額等の推移

（2010年9月27日～2015年9月25日）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注）ベンチマークは、シティ世界国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）です。詳細につきましては、最終ページをご覧ください。
（注）分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2010年９月27日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2010年９月27日 期初	2011年９月26日 決算日	2012年９月25日 決算日	2013年９月25日 決算日	2014年９月25日 決算日	2015年９月25日 決算日
基準価額　（円）	9,644	9,051	9,423	11,354	12,491	12,943
期間分配金合計（税引前）　（円）	－	100	100	100	100	100
分配金再投資基準価額騰落率（%）	－	△ 5.1	5.2	21.6	10.9	4.4
シティ世界国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）騰落率（%）	－	△ 3.5	4.4	20.6	11.2	5.4
純資産総額　（百万円）	45	39	11	9	31	33

（注）上記騰落率は、小数点以下第２位を四捨五入して表示しております。
（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
（注）騰落率は１年前の決算応当日との比較です。

投資環境

（2014年9月26日～2015年9月25日）

＜先進国の国債市場＞

主要中央銀行による金融緩和策の強化や利下げが相次ぐとともに、原油価格の急落に伴う世界的なインフレ率低下を背景に、2015年１月末にかけて、投資国の国債利回りが大幅に低下（価格は上昇）しました。その後も、欧州中央銀行（ＥＣＢ）による量的緩和（ＱＥ）開始を受けて、ユーロ圏中心に投資国の国債利回りが低下（価格は上昇）しました。その後、４月中旬から６月中旬にかけては、原油価格上昇に伴うユーロ圏の物価下振れ懸念後退や米国の利上げ観測の高まり等を背景に、投資国の国債利回りが大幅に上昇（価格は下落）する展開となりました。しかし、７月中旬以降は、原油など商品市況の下落基調が鮮明となる中、中国経済の減速懸念の高まりや世界的な株安を受けて、質への逃避の動きが強まり、投資国の国債利回りが低下しました。

＜為替市場＞

年金積立金管理運用独立行政法人（ＧＰＩＦ）による資産配分の変更（外国資産の比率上昇）や、日銀による「量的・質的金融緩和」の強化策発表を受けて、2014年12月上旬にかけ、投資通貨に対し大幅な円安が進行しました。その後、ＥＣＢの量的緩和導入、カナダとオーストラリアの利下げを背景に、米ドル以外の投資通貨に対し円高基調が鮮明となりましたが、原油価格の反発や米国の利上げ観測の高まりに伴う投資国の国債利回り上昇を背景に、2015年６月上旬にかけては、再び円安傾向となりました。しかし、７月中旬以降は、原油など商品市況の下落基調が鮮明となったことに加え、中国人民元の実質的な切り下げとその後の世界的な株安を受けて、豪ドルと加ドルに対し大幅な円高が進行しました。また、８月下旬の世界的な株安局面では、米ドルや英ポンドに対しても急速な円高が進行する場面が見られました。

当ファンドのポートフォリオ

（2014年9月26日～2015年9月25日）

＜ワールド・ソブリンインカム（１年決算型）（愛称　十二単衣（１年決算型））＞

「ワールド・ソブリンインカム マザーファンド」の受益証券を主要投資対象とし、同受益証券の組入比率を概ね99％台と高位で推移させました。

○ワールド・ソブリンインカム マザーファンド

７ヵ国の主要先進国の国債に分散投資するとともに、各国の景気動向、各中央銀行の金融政策スタンス、相場動向等に留意し、金利変動リスクを測る尺度であるデュレーション※を変化させました。デュレーションは、6.11年～7.15年の範囲内での推移となり、当期末は6.82年となりました。また、６通貨に分散投資し、相場動向に対応し各通貨の投資比率を変化させることで、為替変動リスクのコントロールを図りました。当期間においては、米ドル中心のポートフォリオを維持し、外貨建資産の投資比率は89.4％～96.3％の範囲内での推移となりました。ベンチマークと比較し、米ドル、英ポンド、加ドル、豪ドルの投資比率を高めに推移させる一方、円とユーロの投資比率は低めに推移させました。しかし、米ドルについては投資比率を段階的に引き下げた結果、当期末時点では、ベンチマークを下回ることとなりました。なお、外貨建資産につきましては、運用の基本方針通り、為替ヘッジは行いませんでした。

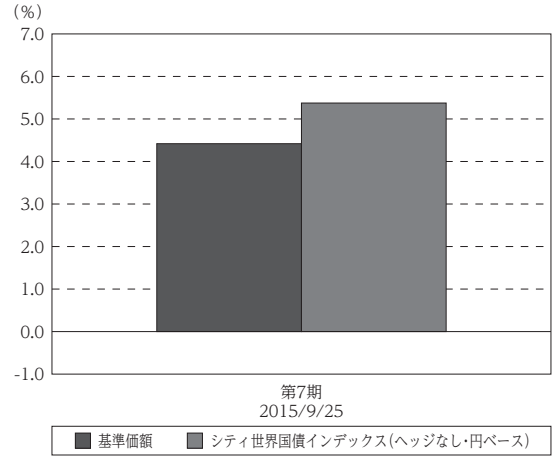
※デュレーション：金利変動に伴う債券価格の変動性を示す指標として用いられ、一般的にこの値が大きい程、金利変動に伴う債券価格の変動リスクが大きくなります。また、対象債券のクーポンが同じであれば、残存期間が長いほどデュレーションは長くなります。デュレーションは保有債券の平均残存年数とは異なり、利付債券の場合、平均残存年数よりも短く表記されます。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2014年9月26日～2015年9月25日）

分配金も考慮した当ファンドの基準価額の騰落率は、ベンチマークである「シティ世界国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）」の騰落率を1.0%下回りました。差異の状況および要因については前掲の「基準価額の主な変動要因」をご参照ください。

基準価額とベンチマークの対比（騰落率）



（注）基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。
（注）ベンチマークは、シティ世界国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）です。詳細につきましては、最終ページをご覧ください。

投資対象国の金利と為替

	10年国債利回り（現地終値）			為替レート		
	2014/ 9 /25	2015/ 9 /25	変化幅	2014/ 9 /25	2015/ 9 /25	変化率
アメリカ	2.56%	2.13%	△ 0.43%	109.23	120.36	10.2%
カナダ	2.20%	1.47%	△ 0.73%	98.60	90.19	△ 8.5%
オーストラリア	3.61%	2.66%	△ 0.95%	96.71	84.41	△ 12.7%
日本	0.53%	0.32%	△ 0.21%	－	－	－
ドイツ	1.00%	0.60%	△ 0.40%	139.55	134.42	△ 3.7%
フランス	1.34%	0.99%	△ 0.35%	139.55	134.42	△ 3.7%
イタリア	2.37%	1.74%	△ 0.63%	139.55	134.42	△ 3.7%
イギリス	2.48%	1.76%	△ 0.72%	178.39	183.19	2.7%

（注）10年国債利回りは、日本を除き当該日の現地前営業日の引値です。
（注）為替相場は当日のわが国の対顧客電信売買相場の仲値です。

「ワールド・ソブリンインカム マザーファンド」の組入資産構成比

	2014/ 9 /25	2015/ 9 /25	変化幅
アメリカ国債	40.9%	29.0%	△ 11.9%
カナダ国債	11.0%	9.4%	△ 1.6%
オーストラリア国債	8.1%	10.3%	2.2%
日本国債	2.3%	3.3%	1.0%
ユーロ	24.4%	28.3%	3.9%
ドイツ国債	11.6%	13.4%	1.8%
フランス国債	12.8%	14.9%	2.1%
イタリア国債	－	－	－
イギリス国債	8.7%	13.5%	4.8%
短期金融商品・その他	4.5%	6.2%	1.7%
保有債券の平均最終利回り	1.67%	1.29%	△ 0.38%
保有債券の平均直接利回り	4.47%	3.81%	△ 0.66%
ファンドのデュレーション	6.23年	6.82年	0.59年
ベンチマークのデュレーション	7.01年	7.21年	0.20年

（注）各国の保有債券の未収利息に関しては、「短期金融商品・その他」に含めて表示しております。このため、表中の国別構成比と文章中の通貨別投資比率とは正確には一致しません。
（注）国別構成比は、小数点以下第２位を四捨五入しているため合計と合わない場合があります。
（注）国別構成比は、「ワールド・ソブリンインカム マザーファンド」の純資産総額に対する比率です。

分配金

（2014年9月26日～2015年9月25日）

分配対象収益は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益等の全額となっております。当期におきましては、当期末に1万口当たり100円（税引前）の収益分配を行いました。なお、留保益の運用につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

（単位：円、1万口当たり、税引前）

項　　目	第７期 2014年９月26日～ 2015年９月25日
当期分配金	100
（対基準価額比率）	0.767%
当期の収益	100
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	2,803

（注）対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

（投資環境の見通し）

債券市場においては、中国経済の減速懸念が強まる中、グローバル経済の先行きに対する警戒感が台頭しつつあることや原油など商品市況の下落に伴う物価の下振れ懸念から、当面は投資国の国債利回りが低位で推移する展開が想定されます。また、米国の利上げが視野に入り始めていますが、利上げが実施されたとしてもそのペースは緩やかなものになると予想されることや日銀とＥＣＢは強力な金融緩和策を継続する見込みであることから、今後も低金利環境は続くと考えています。為替市場においては、2015年８月中旬に実施された人民元の実質的な切り下げは、2014年後半以降の大幅な「円安・ユーロ安」「米ドル高・人民元高」を修正する動きの始まりと考えており、中期的には、米ドルや人民元に対する円高余地が残されていると判断しています。このため、今後も市場心理が悪化しリスク回避の動きが強まる場面では、円高が進行しやすい展開になると思われます。一方、日銀が強力な金融緩和策を継続すると予想されることは、このような円高圧力を緩和する要因として働くと見ています。

（運用方針）

＜ワールド・ソブリンインカム（１年決算型）（愛称　十二単衣（１年決算型））＞

主要投資対象である「ワールド・ソブリンインカム マザーファンド」の受益証券の組入比率は99%台の高位を維持する方針です。ただし、追加設定・解約の動向等によっては組入比率が高位にならない場合があります。

○ワールド・ソブリンインカム マザーファンド

世界経済の構造的な変化や国際情勢の動向、各国の景気動向や物価動向、各中央銀行の金融政策スタンス等に留意するとともに、金融市場間の資金の流れを分析することにより、国別・通貨別配分やデュレーションを決定していく方針です。これにより、ポートフォリオの為替変動リスクと金利変動リスクのコントロールを図ってまいります。なお、外貨建資産につきましては、運用の基本方針通り、原則として為替ヘッジは行わない方針です。

お知らせ

・法令諸規則の改正に伴い、投資信託約款に所要の変更を行いました。（実施日：2014年12月１日）

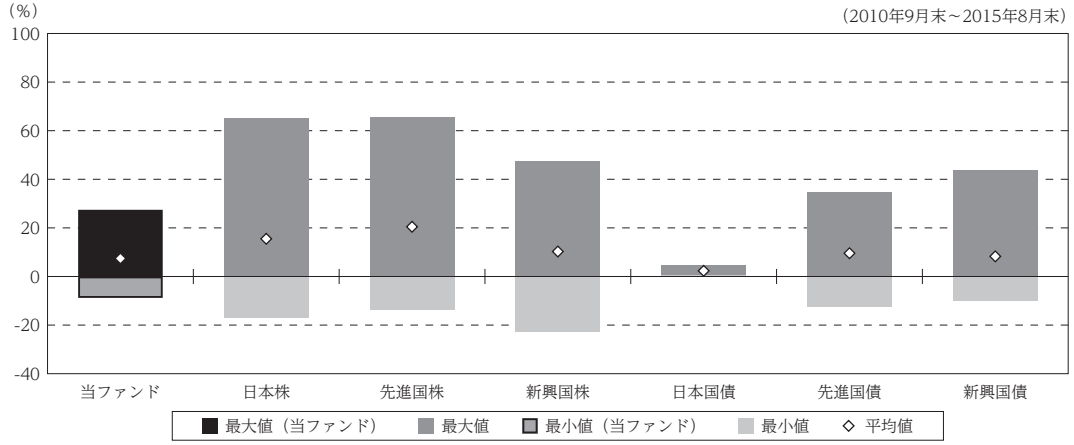
・弊社は、資産運用・リスク管理態勢の高度化等への取り組みを一段と強化すべく、2015年４月１日付けで運用部門に関し以下の組織変更を行いました。
① 運用企画部の新設
② 投資調査部を投資情報部に改称
③ 運用各部を投資対象資産別に再編
④ トレーディング部を運用本部から分離

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	2008年10月15日から、原則として無期限です。	
運用方針	ワールド・ソブリンインカム マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）の受益証券を主要投資対象とし、マザーファンドを通じて、日本を含む主要先進各国のソブリン債（国債及び政府保証債等）に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。 原則として、外貨建資産の為替ヘッジは行いません。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。
	ワールド・ソブリンインカム マザーファンド	日本を含む主要先進各国のソブリン債（国債および政府保証債等）を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とするファミリーファンド方式で運用を行います。
	ワールド・ソブリンインカム マザーファンド	日本を含む主要先進国のソブリン債（国債および政府保証債等）に分散投資し、リスク分散を図ったうえで、長期的に安定した収益の確保と信託財産の成長を目指して運用を行います。
分配方針	毎年９月25日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として以下の方針に基づき、収益分配を行います。分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当収入等の全額とします。繰越分を含めた経費控除後の利子・配当収入等には、マザーファンドの利子・配当収入等のうち、投資信託財産に帰属すべき利子・配当収入等を含むものとします。分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案し、決定します。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



（単位：%）

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	27.5	65.0	65.7	47.4	4.5	34.9	43.7
最小値	△ 8.8	△ 17.0	△ 13.6	△ 22.8	0.4	△ 12.7	△ 10.1
平均値	7.4	15.5	20.5	10.3	2.3	9.6	8.3

（注）全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
（注）2010年９月から2015年８月の５年間の各月末における直近１年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
（注）上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。
（注）当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》
日 本 株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）
先進国株：MSCI－KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）
新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）
日本国債：NOMURA－BPI国債
先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）
新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

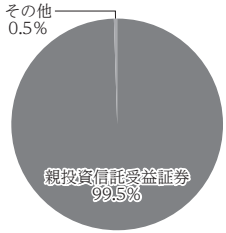
（2015年9月25日現在）

○組入上位ファンド

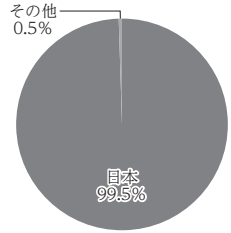
銘柄名	第７期末
	%
ワールド・ソブリンインカム マザーファンド	99.5
組入銘柄数	1銘柄

（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
（注）組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

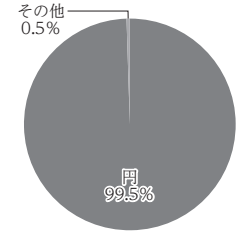
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100％超となる場合があります。
（注）国別配分につきましては発行国を表示しております。

純資産等

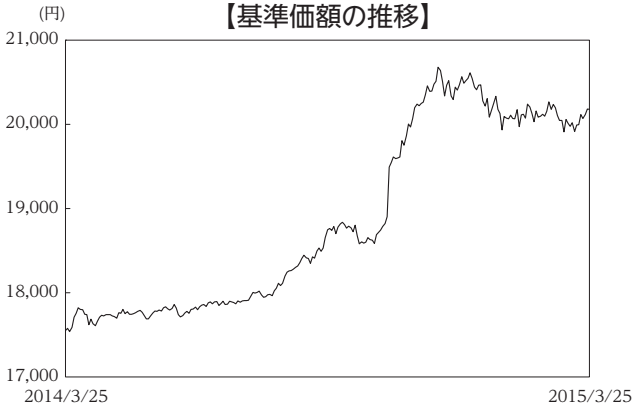
項目	第７期末
	2015年９月25日
純資産総額	33,131,924円
受益権総口数	25,598,298口
１万口当たり基準価額	12,943円

＊期中における追加設定元本額は6,301,230円、同解約元本額は5,673,144円です。

組入上位ファンドの概要

ワールド・ソブリンインカム マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2014年3月26日～2015年3月25日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a)その他費用	2	0.010
(保管費用)	(2)	(0.010)
(その他)	(0)	(0.000)
合計	2	0.010
期中の平均基準価額は、18,864円です。		

(注)上記項目の概要につきましては、2ページをご参照ください。
(注)各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注)各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

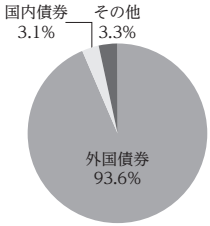
【組入上位10銘柄】

(2015年3月25日現在)

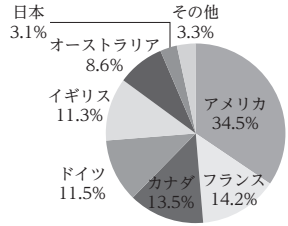
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
					%
1	DEUTSCHLAND REP 2	国債証券	ユーロ	ドイツ	5.5
2	US TREASURY N/B 9.875	国債証券	米ドル	アメリカ	5.3
3	US TREASURY N/B 3.5	国債証券	米ドル	アメリカ	5.0
4	TREASURY 5	国債証券	英ポンド	イギリス	4.9
5	CANADA-GOV'T 2.5	国債証券	加ドル	カナダ	4.7
6	AUSTRALIAN GOVT. 5.5	国債証券	豪ドル	オーストラリア	4.3
7	US TREASURY N/B 2.5	国債証券	米ドル	アメリカ	4.1
8	FRANCE O.A.T. 4.25	国債証券	ユーロ	フランス	4.1
9	CANADA-GOV'T 11.25	国債証券	加ドル	カナダ	4.0
10	FRANCE O.A.T. 3.75	国債証券	ユーロ	フランス	3.9
組入銘柄数		32銘柄			

(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
(注)組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
(注)国（地域）につきましては発行国を表示しております。

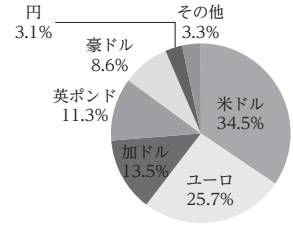
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。
(注)国別配分につきましては発行国を表示しております。
(注)通貨別配分につきましては組入債券の通貨別比率を表示しております。

当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は、運用報告書（全体版）をご覧ください。

＜当ファンドのベンチマークについて＞

シティ世界国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）はCitigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

○MSCI － KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI － KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA － BPI国債

NOMURA － BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA － BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

シティ世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、シティ世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス － エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス － エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス － エマージング・マーケッツ・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。